

れまでも数多く報告されているが、今回われわれは、腎スキャン用剤である^{99m}Tc アプロチニンの乳腺腫瘍への親和性に関して臨床的検討を加えた。

対象は臨床的に乳腺腫瘍と診断された19例で、悪性腫瘍16例(乳頭腺管癌4例、髄様腺管癌10例、その他2例)良性腫瘍3例であった。これらの患者に対し^{99m}Tc アプロチニン 4 mCi を静注し、15分像、3時間像を中心としたイメージングを行った。

原発部に一致する集積像は14例に認められ、悪性69% (11/16)、良性100% (3/3)で、悪性4例では触知リンパ節への集積を認めた。

さらに^{99m}Tc アプロチニンの放射性薬剤としての特性についても検討した。

12. ⁶⁷Ga-citrate のびまん性肺集積の検討

——特に胸部放射線照射および抗癌剤との関連——

星 宏治	(福島医大・がん診)
戸川 貴史	(同・核)
木村 和衛	(同・放)

悪性腫瘍後にびまん性⁶⁷Ga 肺集積を示した12例について、その⁶⁷Ga 集積程度と胸部放射線照射、化学療法および胸部X線所見との関連を検討し、以下の結果を得た。

1) 12例中4例は化学療法単独群であり、抗癌剤と肺線維症との関連が示唆された。

2) 胸部への放射線照射線量と⁶⁷Ga 肺集積程度との関連を見たが、照射量が30 Gy以上になると⁶⁷Ga 集積程度が増強する傾向にあった。

3) Cyclophosphamide 投与を受けた9例についてその投与量と⁶⁷Ga 肺集積程度との関連を見たが明らかな傾向はなかった。

4) 12例中3例では、胸部X線像の変化に先行して⁶⁷Ga シンチが陽性像を示し、⁶⁷Ga シンチの有用性が認められた。

13. 亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) における脳シンチグラフィの1例

杉江 広紀	早坂 和正	斉藤 泰博
天羽 一夫		(旭川医大・放)

亜急性硬化性全脳炎は、従来麻疹抗体価、脳波、臨床症状が用いられてきた。われわれは免疫不全症候群の症例に発症したSSPEの脳シンチグラフィ、脳CTを施行しそれぞれに陽性所見を得た。脳シンチグラフィにては前頭葉両側に淡い異常集積を認め、同時期の脳CTにて同部に直径3 cmほどの皮質下に及ぶ高吸収域その周囲に数mmの低吸収域を認めた。3週間後の脳シンチグラフィでは、前回の異常集積は消失し、脳CTにて高吸収域は等吸収域から低吸収域へと変化した。SSPEの脳シンチグラフィについては過去報告があるが、同時期の脳CTにては、等吸収から低吸収を示したのがほとんどで、脳シンチグラフィの異常集積とともに、脳CTにて高吸収域を呈した本例は免疫不全症候群に生じたSSPEの病理との関連が考えられた。

14. N-Isopropyl (I-123)-P-Iodoamphetamine (I-123 IMP) の使用経験

伊藤 和夫	竹井 秀敏	(北大・放)
藤森 研司	中駄 邦博	古舘 正徳
		(同・核)
高山 宏		(市立砂川病院・脳)
相沢 仁志		(同・内)
飯田 哲	折井 秀俊	(同・放部)

N-isopropyl (I-123)-p-iodoamphetamine (I-123 IMP) は脳血管性障害を診断する新しい放射性薬剤としてその臨床応用が期待されている。同薬剤を用いたsingle photon computed tomography (SPECT) 13例について、CT スキャン所見と比較し報告した。

I-123 IMP 3 mCi/成人を静注し、30分後5方向の頭部planner イメージと360度64ステップ、1ステップ40秒のSPECTを施行した。頭部断層像はOMラインに添って1スライス8.6 mm幅の横断断層像を作製した。装置は日立ガンマビュー F RCTを用いた。

脳梗塞(CI)ではSPECTはCTと比較して異常部位の検出では一致したが、CTよりも広い範囲の異常を示した。CI以外の症例で観察されたCT正常でSPECT